

岩谷力教授講演内容

二分脊椎症者の運動能力について

歩くことは、人間にとっての移動手段である。

社会的な意味付としては、

現状の社会では、車椅子では移動できない 車椅子 「何だ?」と周りが思う
社会・文化的意味が大きくなっている

歩行 移動 社会活動

歩行だけが移動の手段ではない

移動の目的...効率よく目的を達成させる

立って歩く時には、

膝を曲げて立つと太ももの筋肉を使う

下腿三頭筋(通常、直立するときこれだけ使う)

まっすぐ立てない 拘縮・変形

下腿三頭筋の力が弱いと立つのが困難

足の裏が地につかないと立つのが困難

下腿三頭筋がない 装具があれば歩行可

大腿四頭筋もない 歩行は不可能

感覚があるかどうか 安定して歩行、安全性(傷)

二分脊椎の場合

筋力の低下・変形・感覚

歩行の意味(移動+健康)

歩けない 運動量の低下 生活習慣病(肥満・高血圧・糖尿病) 脳卒中・心筋
梗塞

肥満はリスクが大きい

二分脊椎症者が健常者と同じ速度で歩くというのは走るのと同じくらいの体力が必要

思春期に運動能力が低下するように見える原因

痛みが出る 神経がひっぱられる

体が大きくなる 行動範囲が広がる

運動能力が低下しているか調べる必要がある

[調査方法]

歩行-速度(普通の速さで、できるだけ速く 80m/min)、距離、格好

酸素コスト-歩くと息切れする